

★★★三沢まつりの由来★★★

【はじまり】

大正11年に開通した、私鉄十和田鉄道の軌道工事が困難であったため、資材や米俵の運搬用に荷車が利用されていたことから、俵を積んだ荷車が山車のはじまりと言われており、その後、八戸三社大祭を参考に、山車の自作や借用などの方法により、古間木地区の商人と住民らが祭りを作り上げた。

記録写真（提供者：佐々木隆一氏）によると、大正14年9月のはじめに第1回目の三社大祭が開催されている（祭り活性化委員会で確認「写真保存」）。

大正時代、古間木地区（JR三沢駅周辺）ではたいへん火事が多かったらしく、そのため、古間木地区にある不動神社、権現神社、薬師神社の神々を楽しく遊ばせることにより、火を鎮めようと考えられたのが祭りのはじまりとのこと。

当時は、不動神社が権現神社を誘い、薬師神社に二晩泊まり、そして権現神社、不動神社へそれぞれの神々が帰ったことから、現在の祭り期間が三日間となっている。

【経 緯】

- 昭和43年8月30日～9月1日：三社大祭から三沢まつりに名称を変更し開催（三沢市商工会史）。
- 昭和44年8月25日：前夜祭行事として祭りばやし競演会がはじまる。場所：市民会館前／舞台：三沢米軍基地より借用した大型トレーラー。
- 平成4年8月：中央公園で山車展示と併せた前夜祭行事を試みた結果、雨にも関わらず3台の山車が公会堂前に展示。
- 平成9年8月：平成8年にオープンしたミスビールドームで過去最高の14台の山車展示と併せた前夜祭が大盛況。
- 平成14年8月：16台の山車展示と合同運行（うち自作1台）。
- 平成15年8月：15台の自作山車展示と合同運行。運行経路：不動神社から岡小交差点往復／テーマ：再出発。
- 平成16年8月：15台の自作山車展示と合同運行。運行経路：30ロードを周回し初の「十五山車別れのけんか太鼓」を行なう。テーマ：再出発「第2ステージ」。
- 平成17年8月：15台の自作山車展示と合同運行。ファイナルイベント：十五山車別れのけんか太鼓と十五山車見送り（運営委員会）。テーマ：燃える夏。
- 平成18年8月：15台の自作山車展示と合同運行。一部祭礼30ロードにて待機合流。ファイナルイベント：十五山車別れのけんか太鼓（十五山車見送りは実施せず）。テーマ：燃える夏。
- 平成19年8月：三沢市の意向により、委託事業から補助事業に移行され三沢市商工会が単独主催者となる。15台の自作山車展示と合同運行。初めて御神輿渡御及び山車の合同夜間運行を実施する。テーマ：燃える夏。
- 平成20年8月：雨天のためビールドームでの山車展示は中止。祭りばやし競演会は公会堂大ホールで開催。公会堂での開催は平成8年に行われてから実に12年ぶりの開催となった。会場はほぼ満席の状態で賑わう。
- 平成21年8月：前夜祭を含む4日間天候に恵まれ成功裏に終了。
- 平成22年8月：連日、最高気温が30度を超える灼熱と太陽のもと、熱中症など心配されたが無事終了。「夜空に燃え上がる伝統と情熱」